

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3152702号
(U3152702)

(45) 発行日 平成21年8月13日(2009.8.13)

(24) 登録日 平成21年7月22日(2009.7.22)

(51) Int.Cl.

A 6 1 L 9/12 (2006.01)

F 1

A 6 1 L 9/12

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 実願2009-949 (U2009-949)
(22) 出願日 平成21年2月24日(2009.2.24)(73) 実用新案権者 000133445
株式会社ダスキン
大阪府吹田市豊津町1番33号
(74) 代理人 100084342
弁理士 三木 久巳
(72) 考案者 山崎 陽子
大阪府吹田市豊津町1番33号 株式会社
ダスキン内
(72) 考案者 木原 葉子
大阪府吹田市豊津町1番33号 株式会社
ダスキン内
(72) 考案者 北田 朗
大阪府吹田市豊津町1番33号 株式会社
ダスキン内

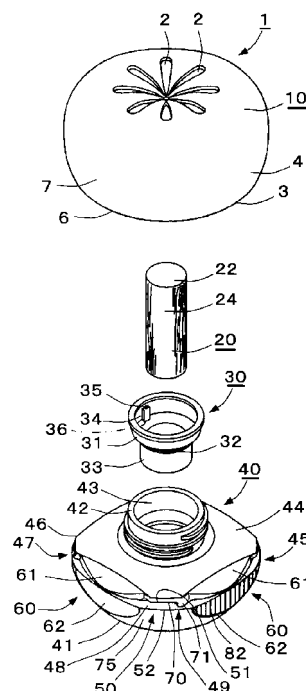
(54) 【考案の名称】 芳香剤発散器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】カバー装着状態における外気の流出入が円滑に行われ、芳香の放散効率を向上させることのできる芳香剤発散器を提供する。

【解決手段】芳香剤発散器1は、上面に芳香を大気中に放散する8個の放出孔2を穿孔して円形壁4により下面に形成される円形開口部3を有した蓋体10と、液体芳香剤を内蔵した収容部41の上面44中央に形成された環状突起42の開口部43から芳香剤5を吸引する吸上芯20の上面22を突出させて芳香剤を蒸発させる容器本体40とからなる。円弧状部50は蓋体10の円形開口部3と結合密着して外気を遮断し、通気用切欠部60と円形開口部3との間隙は外気の間隙通気路を形成する。垂直壁62と円形開口部3との間隙を通気口として流入する外気が間隙通気路を通じて傾斜壁61により蓋体10内側に誘導されて吸上芯20の上面22側に流通する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

上面に芳香を大気中に放散する複数の放出孔を穿孔して円形壁により下面に形成される円形開口部を有した蓋体と、芳香剤を内蔵した収容部の上面中央に形成された環状突起の開口部から前記芳香剤を吸引する吸上芯の上面を突出させて前記芳香剤を蒸発させる容器本体とから構成され、

前記収容部の上面周側下部の周方向に円弧状部と通気用切欠部を交互に複数個形成し、前記容器本体を前記蓋体で閉鎖したときに、前記円弧状部は前記蓋体の前記円形開口部と結合密着して外気を遮断し、

前記通気用切欠部と前記円形開口部との間隙は外気の間隙通気路を形成し、

前記間隙通気路から流入する外気が前記吸上芯からの前記芳香剤の蒸発を促進させながら前記放出孔から流出して前記芳香を大気中に放散させることを特徴とする芳香剤発散器。

10

【請求項 2】

前記上面周側下部は、上面周縁と、前記上面周縁から下向き段差を介して前記上面周縁を包囲するように形成された環状面と、前記環状面外周縁からなり、前記円弧状部は前記上面周縁の小円弧状部と前記環状面外周縁の大円弧状部からなり、前記通気用切欠部は前記上面周縁から前記環状面へと外向下方傾斜する傾斜壁と前記環状面外周縁を裁断状に切欠いた垂直壁からなり、前記垂直壁と前記円形開口部との間隙が通気口となり、前記蓋体の前記円形壁と前記傾斜壁との間隙が前記間隙通気路となり、前記通気口から流入する外気が前記傾斜壁により誘導されて前記吸上芯の上面へと流通する請求項1に記載の芳香剤発散器。

20

【請求項 3】

前記小円弧状部と前記環状面の間に円弧状溝が周方向に刻設され、前記円弧状溝の端部に止部が形成され、円形壁の内面周方向に結合用突起が形成され、前記結合用突起を前記円弧状溝に係合して前記蓋体を回動し、前記結合用突起が前記止部により回動を阻止されて、前記蓋体と前記容器本体との結合が完成する請求項2に記載の芳香剤発散器。

【請求項 4】

複数の前記垂直壁のうち少なくとも対向する2面に摩擦生起用リブを2本以上突設した請求項2又は3に記載の芳香剤発散器。

【請求項 5】

前記摩擦生起用リブは前記垂直壁に形成された等間隔縦状リブ、間隔漸増型縦状リブ又は波紋状リブである請求項4に記載の芳香剤発散器。

30

【請求項 6】

前記円形壁の円形端面と前記環状面とが接合したとき、前記円形壁の外表面と前記容器本体の外表面とが面一に形成される請求項2～5のいずれかに記載の芳香剤発散器。

【請求項 7】

前記環状突起に中間キャップを内嵌させ、前記中間キャップは前記吸上芯に外接する縮径部と前記環状突起に内接する拡径部と前記縮径部及び前記拡径部の間に接続されるテーパ部からなり、前記拡径部の内面に収容部側孔と蓋体側孔を有する連通部を突設し、前記連通部により前記収容部と前記蓋体内部とを連通する請求項1～6のいずれかに記載の芳香剤発散器。

40

【請求項 8】

前記環状突起の開口部にキャップを冠着して、芳香発散不要時に前記芳香剤の蒸発を防止する請求項1～7の何れかに記載の芳香剤発散器。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、室内やトイレ、あるいは自動車内などで使用される芳香剤を収容し、芳香剤からの芳香を大気中に放散させる芳香剤発散器に関する。

【背景技術】

50

【0002】

この種の芳香剤発散器には、例えば、特許文献1及び2に開示されているように、壺型やポット形状の容器に液状芳香剤を収容し、一端を芳香剤に浸漬した吸上芯の開放端から芳香気体を放散させるものが使用されている。

特許文献1の場合、アルコールランプ型の芳香剤容器の中央に芯材を装着し、その上から半球状カバーを冠着している。また、特許文献2においては、偏平状の芳香剤容器に液体吐出管を装着し、その上からカバー部材を冠着している。特許文献2の容器は押圧変形可能であり、容器の変形で押し出された芳香剤液は、液体吐出管の先端から溢れ出して、その先端付近に設けた蒸散補助部材に吸収される。

【0003】

芳香剤発散器においては、芯材ないし蒸散補助部材を大気中に露出させると、塵埃の付着のおそれがあると共に芳香剤の蒸発が促進されすぎて芳香剤の消耗が早くなってしまうため、上記カバー部材を冠着している。カバー部材には芳香の通気孔が形成され、芳香剤から蒸発した芳香を大気中に放散させている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開平11-262518号公報

【特許文献2】特開平8-40477号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

特許文献2の容器構造では、液体吐出管の先端から、あるいは蒸散補助部材に吸収された芳香剤から芳香気体が自然蒸散されるものの、上記カバー部材には、液体吐出管の直上に円形孔と放射状溝を形成しているだけであるため、外気の流出入が生じにくく、芳香の放散効率が低下する問題を生ずる。

また、特許文献1の半球状カバーでは、芯材の直上を避けて、先端周りのカバー側面にエア通気孔を穿設している。この場合、エア通気孔から入った外気が芯材の先端付近を通過し、別の通気孔より略水平方向に流出するものの、別々の通気孔からの流入エアードウシが衝突したりして、外気の流出入が十分に生じにくい問題があった。

【0006】

本考案は、上記課題に鑑みてなされたものであり、カバー装着状態における外気の流出入が円滑に行われ、芳香の放散効率を向上させることのできる芳香剤発散器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本考案は上記課題を解決するために為されたものであり、本考案の第1の形態は、上面に芳香を大気中に放散する複数の放出孔を穿孔して円形壁により下面に形成される円形開口部を有した蓋体と、芳香剤を内蔵した収容部の上面中央に形成された環状突起の開口部から前記芳香剤を吸引する吸上芯の上面を突出させて前記芳香剤を蒸発させる容器本体とから構成され、前記収容部の上面周側下部の周方向に円弧状部と通気用切欠部を交互に複数個形成し、前記容器本体を前記蓋体で閉鎖したときに、前記円弧状部は前記蓋体の前記円形開口部と結合密着して外気を遮断し、前記通気用切欠部と前記円形開口部との間隙は外気の間隙通気路を形成し、前記間隙通気路から流入する外気が前記吸上芯からの前記芳香剤の蒸発を促進させながら前記放出孔から流出して前記芳香を大気中に放散させる芳香剤発散器である。

【0008】

本考案の第2の形態は、第1の形態において、前記上面周側下部は、上面周縁と、前記上面周縁から下向き段差を介して前記上面周縁を包囲するように形成された環状面と、前記環状面外周縁からなり、前記円弧状部は前記上面周縁の小円弧状部と前記環状面外周縁

10

20

30

40

50

の大円弧状部からなり、前記通気用切欠部は前記上面周縁から前記環状面へと外向下方傾斜する傾斜壁と前記環状面外周縁を裁断状に切欠いた垂直壁からなり、前記垂直壁と前記円形開口部との間隙が通気口となり、前記蓋体の前記円形壁と前記傾斜壁との間隙が前記間隙通気路となり、前記通気口から流入する外気が前記傾斜壁により誘導されて前記吸上芯の上面へと流通する芳香剤発散器である。

【0009】

本考案の第3の形態は、第2の形態において、前記小円弧状部と前記環状面の間に円弧状溝が周方向に刻設され、前記円弧状溝の端部に止部が形成され、円形壁の内面周方向に結合用突起が形成され、前記結合用突起を前記円弧状溝に係合して前記蓋体を回動し、前記結合用突起が前記止部により回動を阻止されて、前記蓋体と前記容器本体との結合が完成する芳香剤発散器である。

10

【0010】

本考案の第4の形態は、第2又は第3の形態において、複数の前記垂直壁のうち少なくとも対向する2面に摩擦生起用リブを2本以上突設した芳香剤発散器である。

【0011】

本考案の第5の形態は、第4の形態において、前記摩擦生起用リブは前記垂直壁に形成された等間隔縦状リブ、間隔漸増型縦状リブ又は波紋状リブである芳香剤発散器である。

【0012】

本考案の第6の形態は、第2～第5のいずれかの形態において、前記円形壁の円形端面と前記環状面とが接合したとき、前記円形壁の外表面と前記容器本体の外表面とが面一に形成される芳香剤発散器である。

20

【0013】

本考案の第7の形態は、第2～第5のいずれかの形態において、前記環状突起に中間キャップを内嵌させ、前記中間キャップは前記吸上芯に外接する縮径部と前記環状突起に内接する拡径部と前記縮径部及び前記拡径部の間に接続されるテーパ部からなり、前記拡径部の内面に収容部側孔と蓋体側孔を有する連通部を突設し、前記連通部により前記収容部と前記蓋体内部とを連通する芳香剤発散器である。

【0014】

本考案の第8の形態は、第1～第7のいずれかの形態において、前記環状突起の開口部にキャップを冠着して、芳香発散不要時に前記芳香剤の蒸発を防止する芳香剤発散器である。

30

【考案の効果】

【0015】

本考案は、室内や車内等における空気流が横方向の流れよりも下方から上方に生ずる傾向にある点に着目して為されたものである。

本考案の第1の形態によれば、芳香剤を内蔵した前記収容部の上面周側下部の周方向に円弧状部と通気用切欠部を交互に複数個形成し、前記容器本体を前記蓋体で閉鎖したときに、前記円弧状部は前記蓋体の前記円形開口部と結合密着して外気を遮断し、前記通気用切欠部と前記円形開口部との間隙は外気の間隙通気路を形成し、前記間隙通気路から流入する外気が前記吸上芯からの前記芳香剤の蒸発を促進させながら前記放出孔から流出して前記芳香を大気中に放散させるので、単に前記蓋体に前記放出孔を形成しただけでは芳香を十分に放散させる空気流が生じないが、前記間隙通気路を通じて前記蓋体の内部を下側から前記吸上芯の上面を通過して前記放出孔より流出するといった外気の流れを生じさせることができる。従って、前記蓋体により前記容器本体を閉鎖したカバー装着状態において、室内等における下方から上方に生ずる空気流を利用しながら芳香放散を円滑且つ効率的に行うことができる。

40

【0016】

本考案に係る芳香剤には、芳香成分を主組成としたものに限らず、消臭成分を含む消臭剤を使用することができる。また、芳香剤の形態には液体に限らず、香料等がゲル状の揮発物質からなるものも含まれる。

50

【0017】

本考案の第2の形態によれば、前記蓋体の前記円形壁と前記傾斜壁との間隙からなる前記間隙通気路を通じて、前記垂直壁と前記円形開口部との間隙である前記通気口から外気が流入し、前記傾斜壁により誘導されて前記吸上芯の上面へと流通するので、前記蓋体によるカバー装着状態において、室内等における下方から上方に生ずる空気流を利用した外気の流れを生じて、芳香放散を円滑且つ効率的に行うことができる。

【0018】

本考案の第3の形態によれば、前記小円弧状部と前記環状面の間に円弧状溝が周方向に刻設され、前記円弧状溝の端部に止部が形成され、円形壁の内面周方向に結合用突起が形成され、前記結合用突起を前記円弧状溝に係合して前記蓋体を回動し、前記結合用突起が前記止部により回動を阻止されて、前記蓋体と前記容器本体との結合が完成するので、前記容器本体の前記円弧状部と前記蓋体の前記円形開口部との結合密着を確実にしながら前記間隙通気路を形成、確保することができる。

10

【0019】

本考案の第4の形態によれば、複数の前記垂直壁のうち少なくとも対向する2面に摩擦生起用リブを2本以上突設したので、前記摩擦生起用リブを指で掴んで前記蓋体を回動することにより、手や指が滑らず前記蓋体と前記容器本体との結合を確実に行うことができる。前記摩擦生起用リブの形成は前記対向する2面のみでもよいが、前記垂直壁を2対以上設け、交差状に配置した他の2面にも形成して4面、8面等にリブ形成してもよい。

20

【0020】

本考案の第5の形態によれば、前記摩擦生起用リブとして、前記垂直壁に形成された等間隔縦状リブ、間隔漸増型縦状リブ又は波紋状リブを用いることにより、前記蓋体の回動操作を円滑に行え、しかも美感に優れたリブ紋様により容器デザイン効果の向上にも寄与する。

【0021】

本考案の第6の形態によれば、前記円形壁の円形端面と前記環状面とが接合したとき、前記円形壁の外表面と前記容器本体の外表面とが面一に形成され、凹凸が解消され把持しやすくなっているので、前記蓋体を装着したカバー状態で持ち運びする際に落下しにくく、しかも全体としてまとまりのある美感を生じさせる外観形状を具現化することができる。

30

【0022】

本考案の第7の形態によれば、前記環状突起に中間キャップを内嵌させ、前記中間キャップは前記吸上芯に外接する縮径部と前記環状突起に内接する拡径部と前記縮径部及び前記拡径部の間に接続されるテーパ部からなり、前記拡径部の内面に収容部側孔と蓋体側孔を有する連通部を突設し、前記連通部により前記収容部と前記蓋体内部とを連通するので、前記中間キャップにより前記吸上芯を安定支持すると共に、前記収容部と前記蓋体内部の圧力差をなくして収容芳香剤の液面の上下動が発生せず、定常的に芳香発散を行わせることができる。

【0023】

本考案の第8の形態によれば、芳香発散不要時には前記環状突起の開口部に前記キャップを冠着することにより前記芳香剤の蒸発を防止することができるので、芳香剤を無駄なく経済的に使用することができる。

40

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図1】本考案に係る芳香剤発散器1の分解斜視図である。

【図2】芳香剤発散器1の組立全体外観図である。

【図3】芳香剤発散器1の縦断面図である。

【図4】芳香剤発散器1の作用説明図である。

【図5】芳香剤発散器1にキャップ90を冠着した縦断面図である。

【図6】円形開口部3側から見た、芳香剤発散器1の蓋体10の平面図である。

50

【図 7】芳香剤発散器 1 の容器本体 40 の平面図である。

【図 8】芳香剤発散器 1 において、蓋体 10 と容器本体 40 を接合した結合完成前後の状態説明図である。図 8 の (8 A) は結合完成前の状態説明図であり、同図 (8 B) は結合完成後の状態説明図である。

【図 9】芳香剤発散器 1 における摩擦生起用リブの変形例を示す変形例説明図である。図 9 の (9 A) は摩擦生起用リブとして対向 2 面に波紋状リブを突設した変形例の説明図であり、同図 (9 B) は摩擦生起用リブとして対向 4 面に間隙漸増型縦状リブを突設した変形例の説明図である。

【考案を実施するための形態】

【0025】

10

以下、本考案の実施形態を図面に基づいて説明する。

図 1 は本考案に係る芳香剤発散器 1 の分解斜視図である。図 2 は芳香剤発散器 1 の組立全体外観図である。図 3 は芳香剤発散器 1 の縦断面図である。

【0026】

芳香剤発散器 1 は、上面に芳香を大気中に放散する 8 個の放出孔 2 を穿孔して円形壁 4 により下面に形成される円形開口部 3 を有した蓋体 10 と、液体芳香剤 5 を内蔵した収容部 41 の上面 44 中央に形成された環状突起 42 の開口部 43 から芳香剤 5 を吸引する吸上芯 20 の上面 22 を突出させて芳香剤を蒸発させる容器本体 40 とから構成されている。芳香剤発散器 1 の各部材は合成樹脂の成形品で形成されている。容器本体 40 はガラス容器で成形してもよい。吸上芯 20 は例えば、アクリル樹脂、ポリエステル樹脂等の樹脂繊維毛を束ねた吸液性棒状芯材からなる。

20

【0027】

図 7 は容器本体 40 の平面図である。容器本体 40 は、上面 44 により上部が閉塞された、略碗状の収容部 41 を備え、上面 44 中央に環状突起 42 が一体的に垂設されている。収容部 41 の上面周側下部 45 には、その周方向に円弧状部 50 と通気用切欠部 60 が 4 個ずつ、交互に形成されている。

【0028】

上面周側下部 45 は、上面周縁 46 と、上面周縁 46 から下向き段差 47 を介して上面周縁 46 を包囲するように形成された環状面 48 と、環状面 48 の外周縁 49 からなる。円弧状部 50 は上面周縁 46 の小円弧状部 51 と環状面外周縁 49 の大円弧状部 52 からなる。通気用切欠部 60 は上面周縁 46 から環状面 48 へと外向下方傾斜する傾斜壁 61 と環状面外周縁 49 を裁断状に切欠いた垂直壁 62 からなる。

30

【0029】

環状突起 42 の開口部 43 外周には、保護用キャップ 90 (後述の図 5 参照) を螺着するためのネジ部が形成されている。開口部 43 には、吸上芯 20 が中間キャップ 30 を介して内嵌、挿着される。中間キャップ 30 を介して内嵌された吸上芯 20 の下端部は芳香剤 5 に浸漬され、吸上芯の開放端は中間キャップ 30 より突出した状態になっている。中間キャップ 30 は吸上芯 20 に外接する縮径部 33 と環状突起 42 に内接する拡径部 31 と縮径部 33 及び拡径部 31 の間に接続されるテーパ部 32 からなる。拡径部 31 の内面には、収容部側孔 36 と蓋体側孔 35 を有する連通部 34 が突設され、連通部 34 により収容部 50 と蓋体 10 内部とが連通している。

40

拡径部 31 の内面に突設された連通部 34 により、吸上芯 20 側面に軽圧をかけて支持する利点もある。従って、中間キャップ 30 は吸上芯 20 を安定支持すると共に、連通部 34 の連通作用により収容部 50 と蓋体 10 内部の圧力差をなくしているので、収容芳香剤 5 の液面の上下動が発生させずに、定常的に芳香発散を行わせることができる。また、拡径部 31 の拡径作用によって吸上芯 20 の突出側面の芳香発散面積を大きくすることができる。

【0030】

図 6 は円形開口部 3 側から見た、前記芳香剤発散器の蓋体 10 の平面図である。蓋体 10 は略碗形状を有し、上面には 8 個の放出孔 2 が放射状に穿設されている。下面の円形開

50

口部 3 の内周縁には、容器本体 40 と係合して結合させるための結合用突起 8 が等間隔で 4 個突設されている。容器本体 40 の小円弧状部 51 と環状面 48 の間には、円弧状溝 70 が周方向に刻設され、また円弧状溝 70 の端部に止部 71 が形成されている。

【0031】

図 8 は蓋体 10 と容器本体 40 を接合した結合完成前後の状態を示す。図 8 の (8A) は結合完成前の状態を示し、同図 (8B) は結合完成後の状態を示す。蓋体 10 の結合用突起 8 を円弧状溝 70 に係合して、図示の時計回り方向 C に蓋体 10 を回動すると、結合用突起 8 が止部 71 により回動が阻止されて、蓋体 10 と容器本体 40 との結合が完成する。

【0032】

蓋体 10 と容器本体 40 との結合によって、容器本体 40 を蓋体 10 により閉鎖したカバー装着状態においては、吸上芯 20 から吸い上げた芳香剤が上面 22 及び吸上芯上部周面 24 から蒸発し、その揮発芳香は放出孔 2 から外気に向けて放散される。

【0033】

図 4 は芳香剤発散器 1 における芳香放散作用の説明図である。上記カバー装着状態においては、円弧状部 50 は蓋体 10 の円形開口部 3 と結合密着して外気を遮断し、通気用切欠部 60 と円形開口部 3 との間隙は外気の間隙通気路 11 を形成している。即ち、垂直壁 62 と円形開口部 3 との間隙が通気口 9 となり、蓋体 10 の円形壁 4 と傾斜壁 61 との間隙が間隙通気路 11 となっている。矢印 A で示すように、通気口 9 から流入する外気が傾斜壁 61 により蓋体 10 内側に誘導されて吸上芯 20 の上面 22 側に流通する。この流入外気は、芳香を発散させている上面 22 及び吸上芯上部周面 24 に流れていくため、吸上芯 20 からの芳香剤 5 の蒸発を促進させると共に、矢印 B で示すように、放出孔 2 からの外部流出も促して発散芳香を大気中に円滑、且つ効率的に放散させることができる。特に、上記カバー装着状態においては、結合用突起 8 と円弧状溝 70 の止部 71 との結合作用により、容器本体 40 の円弧状部 50 と蓋体 10 の円形開口部 3 との結合密着を確実にしながら間隙通気路 11 を形成して、確保することができ、芳香発散を安定的に生じさせる空気流を形成することができる。

【0034】

図 2 に示すように、芳香剤発散器 1 においては、蓋体 10 の円形壁 4 の円形端面 6 と、容器本体 40 の環状面 48 とが接合したとき、円形壁 4 の外表面 7 と容器本体 40 の外表面 75 とが面一に形成されている。従って、芳香剤発散器 1 は、蓋体 10 を装着したカバー状態では、凹凸のない把持しやすい外観形態となっているので、持ち運びする際に落下しにくく、しかも全体としてまとまりのある美感を生じさせる、果物様の外観形状を具備している。

【0035】

容器本体 40 には 4 個の垂直壁 62 が形成されているが、そのうち対向する 2 面側の垂直壁 62 には、20 本の摩擦生起用リブ 82 が突設されている。摩擦生起用リブ 82 は等間隔縦状に刻設されたリブである。摩擦生起用リブ 82 を指で掴んで蓋体 10 を回動することにより、指が滑らず蓋体 10 と容器本体 40 との結合、解除を確実に行うことができる。

【0036】

図 9 は摩擦生起用リブの変形例を示す。図 9 の (9A) は摩擦生起用リブとして対向 2 面に波紋状リブ 84 を垂直壁 62 に突設した変形例を示す。同図 (9B) は摩擦生起用リブとして対向 4 面に間隔漸増型縦状リブ 85 を垂直壁 62 に突設した変形例を示す。摩擦生起用リブとして、(9A) の波紋状リブ 84 又は (9B) の間隔漸増型縦状リブ 85 を用いることにより、等間隔縦状リブと同様に、蓋体 10 の回動操作を円滑に行え、しかも美感に優れたリブ紋様により容器デザイン効果の向上にも寄与する。(9B) に示すように、摩擦生起用リブの形成は対向する 2 面のみでもよいが、4 個の垂直壁 62 の全てに形成してもよい。

【0037】

図5は芳香剤発散器1に保護用キャップ90を冠着したときの縦断面を示す。芳香剤発散器1を使用しないときは、環状突起42の開口部43にキャップ90を螺着して冠着すると、芳香剤5の蒸発を防止することができる。使用時には図3等に示すように、キャップ90を環状突起42から取り外して、吸上芯20の上部を露出させ芳香剤5の発散を行うことができる。従って、キャップ90の着脱により、必要時のみ芳香剤5の放散させ、無駄なく経済的に芳香剤5を消費させることができる。

【産業上の利用可能性】

【0038】

本考案によれば、芳香剤の放散効率を向上させた芳香剤発散器を提供することができる。

10

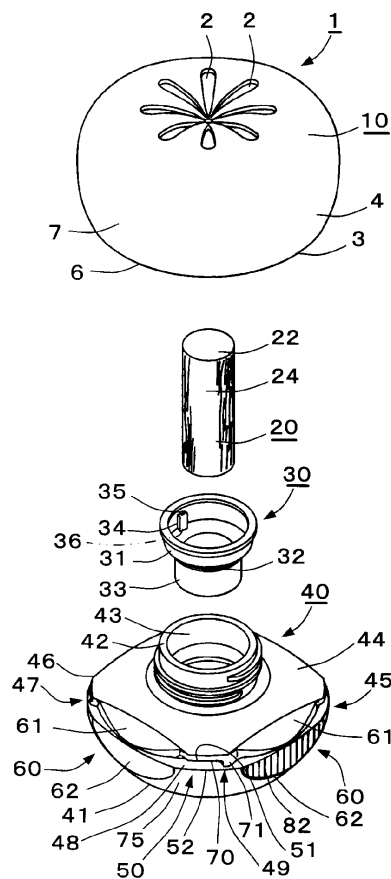
【符号の説明】

【0039】

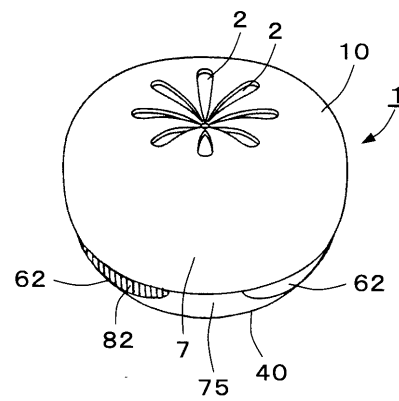
1	芳香剤発散器	
2	放出孔	
3	円形開口部	
4	円形壁	
5	芳香剤	
6	円形端面	
7	外表面	
8	結合用突起	20
9	通気口	
10	蓋体	
11	間隙通気路	
20	吸上芯	
22	上面	
24	吸上芯上部周面	
30	中間キャップ	
31	拡張部	
32	テーパ部	
33	縮径部	30
34	連通部	
35	蓋体側孔	
36	収容部側孔	
40	容器本体	
41	収容部	
42	環状突起	
43	開口部	
44	上面	
45	上面周側下部	
46	上面周縁	40
47	下向き段差	
48	環状面	
49	外周縁	
50	円弧状部	
51	小円弧状部	
52	大円弧状部	
60	通気用切欠部	
61	傾斜壁	
62	垂直壁	
70	円弧状溝	50

- 7 1 止部
 7 5 外表面
 8 2 摩擦生起用リブ
 8 4 波紋状リブ
 8 5 間隙漸増型縦状リブ
 9 0 キャップ
 A 矢印
 B 矢印
 C 時計回り方向

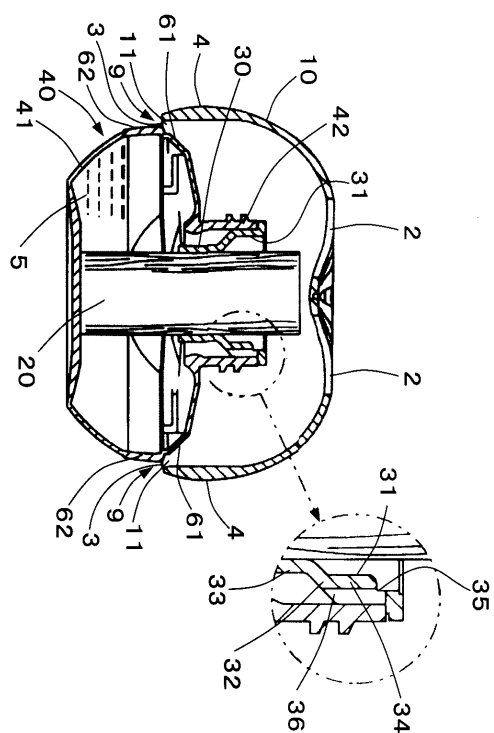
【図 1】



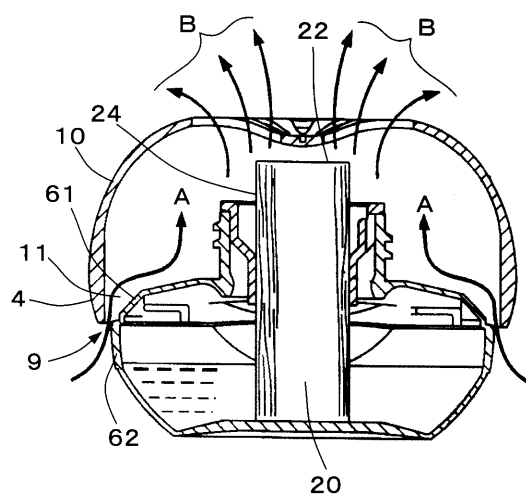
【図 2】



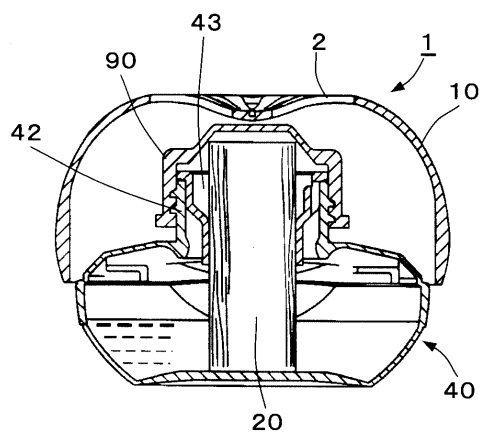
【図 3】



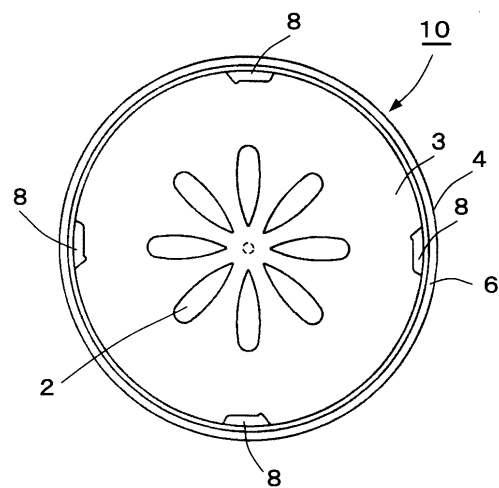
【圖 4】



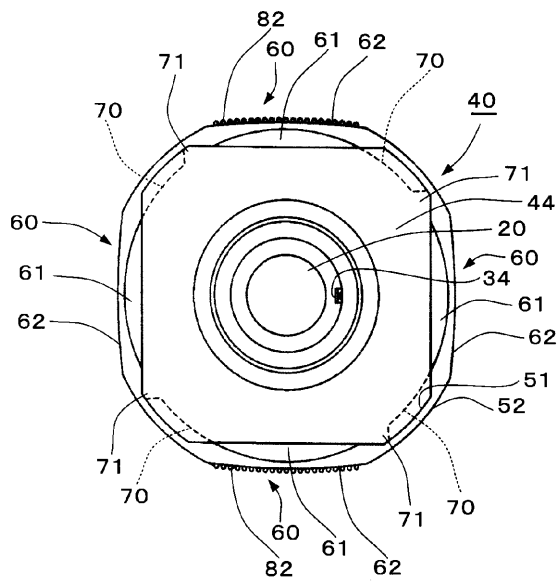
【 図 5 】



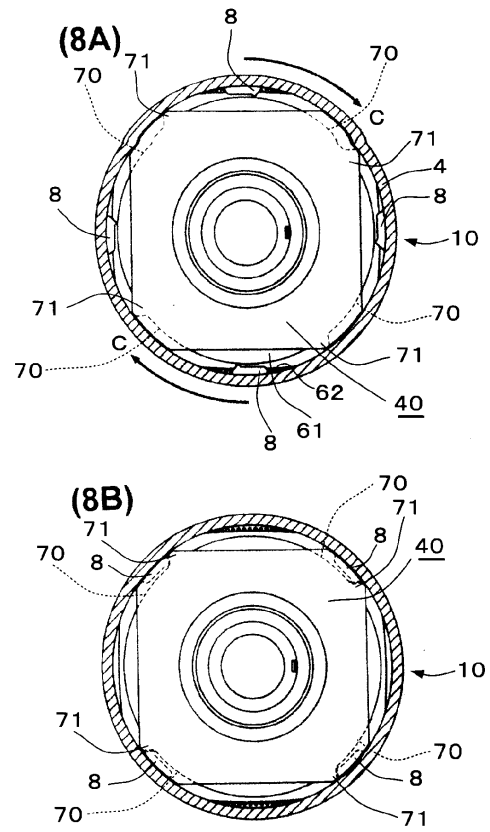
【 図 6 】



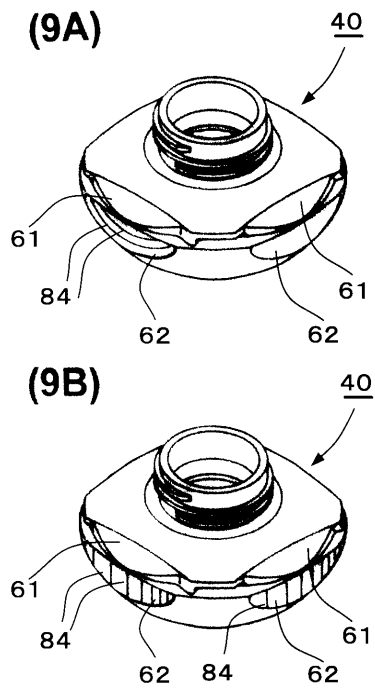
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【手続補正書】

【提出日】平成21年4月23日(2009.4.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

上面に芳香を大気中に放散する複数の放出孔を穿孔して円形壁により下面に形成される円形開口部を有した蓋体と、芳香剤を内蔵した収容部の上面中央に形成された環状突起の開口部から前記芳香剤を吸引する吸上芯の上面を突出させて前記芳香剤を蒸発させる容器本体とから構成され、前記収容部の上面周側下部の周方向に円弧状部と通気用切欠部を交互に複数個形成し、前記容器本体を前記蓋体で閉鎖したときに、前記円弧状部は前記蓋体の前記円形開口部と結合密着して外気を遮断し、前記通気用切欠部と前記円形開口部との間隙は外気の間隙通気路を形成し、前記間隙通気路から流入する外気が前記吸上芯からの前記芳香剤の蒸発を促進させながら前記放出孔から流出して前記芳香を大気中に放散させることを特徴とする芳香剤発散器。

【請求項 2】

前記上面周側下部は、上面周縁と、前記上面周縁から下向き段差を介して前記上面周縁を包囲するように形成された環状面と、前記環状面外周縁からなり、前記複数の円弧状部は前記上面周縁の小円弧状部と前記環状面外周縁の大円弧状部からなり、前記複数の通気用切欠部は前記上面周縁から前記環状面へと外向下方傾斜する傾斜壁と前記環状面外周縁を裁断状に切欠いた垂直壁からなり、前記垂直壁と前記円形開口部との間隙が通気口となり、前記蓋体の前記円形壁と前記傾斜壁との間隙が前記間隙通気路となり、前記通気口から流入する外気が前記傾斜壁により誘導されて前記吸上芯の上面へと流通する請求項1に記載の芳香剤発散器。

【請求項 3】

前記小円弧状部と前記環状面の間に円弧状溝が周方向に刻設され、前記円弧状溝の端部に止部が形成され、円形壁の内面周方向に結合用突起が形成され、前記結合用突起を前記円弧状溝に係合して前記蓋体を回動し、前記結合用突起が前記止部により回動を阻止されて、前記蓋体と前記容器本体との結合が完成する請求項2に記載の芳香剤発散器。

【請求項 4】

前記複数の通気用切欠部の前記垂直壁のうち少なくとも対向する2面に摩擦生起用リブを2本以上突設した請求項2又は3に記載の芳香剤発散器。

【請求項 5】

前記摩擦生起用リブは前記垂直壁に形成された等間隔縦状リブ、間隔漸増型縦状リブ又は波紋状リブである請求項4に記載の芳香剤発散器。

【請求項 6】

前記円形壁の円形端面と前記環状面とが接合したとき、前記円形壁の外表面と前記容器本体の外表面とが面一に形成される請求項2～5のいずれかに記載の芳香剤発散器。

【請求項 7】

前記環状突起に中間キャップを内嵌させ、前記中間キャップは前記吸上芯に外接する縮径部と前記環状突起に内接する拡径部と前記縮径部及び前記拡径部の間に接続されるテーパ部からなり、前記拡径部の内面に収容部側孔と蓋体側孔を有する連通部を突設し、前記連通部により前記収容部と前記蓋体内部とを連通する請求項1～6のいずれかに記載の芳香剤発散器。

【請求項 8】

前記環状突起の開口部にキャップを冠着して、芳香発散不要時に前記芳香剤の蒸発を防止

する請求項1～7の何れかに記載の芳香剤発散器。

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月8日(2009.6.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

上面に芳香を大気中に放散する複数の放出孔を穿孔して円形壁により下面に形成される円形開口部を有した蓋体と、芳香剤を内蔵した収容部の上面中央に形成された環状突起の開口部から前記芳香剤を吸引する吸上芯の上面を突出させて前記芳香剤を蒸発させる容器本体とから構成され、前記収容部の上面周側下部の周方向に円弧状部と通気用切欠部を交互に複数個形成し、前記容器本体を前記蓋体で閉鎖したときに、前記円弧状部は前記蓋体の前記円形開口部と結合密着して外気を遮断し、前記通気用切欠部と前記円形開口部との間隙は外気の間隙通気路を形成し、前記間隙通気路から流入する外気が前記吸上芯からの前記芳香剤の蒸発を促進させながら前記放出孔から流出して前記芳香を大気中に放散させることを特徴とする芳香剤発散器。

【請求項2】

前記上面周側下部は、上面周縁と、前記上面周縁から下向き段差を介して前記上面周縁を包囲するように形成された環状面と、前記環状面の外周縁からなり、前記複数の円弧状部は前記上面周縁の小円弧状部と前記環状面外周縁の大円弧状部からなり、前記複数の通気用切欠部は前記上面周縁から前記環状面へと外向下方傾斜する傾斜壁と前記環状面外周縁を裁断状に切欠いた垂直壁からなり、前記垂直壁と前記円形開口部との間隙が通気口となり、前記蓋体の前記円形壁と前記傾斜壁との間隙が前記間隙通気路となり、前記通気口から流入する外気が前記傾斜壁により誘導されて前記吸上芯の上面へと流通する請求項1に記載の芳香剤発散器。

【請求項3】

前記小円弧状部と前記環状面の間に円弧状溝が周方向に刻設され、前記円弧状溝の端部に止部が形成され、円形壁の内面周方向に結合用突起が形成され、前記結合用突起を前記円弧状溝に係合して前記蓋体を回動し、前記結合用突起が前記止部により回動を阻止されて、前記蓋体と前記容器本体との結合が完成する請求項2に記載の芳香剤発散器。

【請求項4】

前記複数の通気用切欠部の前記垂直壁のうち少なくとも対向する2面に摩擦生起用リブを2本以上突設した請求項2又は3に記載の芳香剤発散器。

【請求項5】

前記摩擦生起用リブは前記垂直壁に形成された等間隔縦状リブ、間隔漸増型縦状リブ又は波紋状リブである請求項4に記載の芳香剤発散器。

【請求項6】

前記円形壁の円形端面と前記環状面とが接合したとき、前記円形壁の外表面と前記容器本体の外表面とが面一に形成される請求項2～5のいずれかに記載の芳香剤発散器。

【請求項7】

前記環状突起に中間キャップを内嵌させ、前記中間キャップは前記吸上芯に外接する縮径部と前記環状突起に内接する拡径部と前記縮径部及び前記拡径部の間に接続されるテーパ部からなり、前記拡径部の内面に収容部側孔と蓋体側孔を有する連通部を突設し、前記連通部により前記収容部と前記蓋体内部とを連通する請求項1～6のいずれかに記載の芳香剤発散器。

【請求項8】

前記環状突起の開口部にキャップを冠着して、芳香発散不要時に前記芳香剤の蒸発を防止

する請求項1～7の何れかに記載の芳香剤発散器。